

番号	7	事業名	総合流域防災	市町村名	中野市	路河川名	(一)篠井川	箇所名(ふりがな)	草間(くさま)	
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	<p>○当河川は、千曲川右岸に流入する支川で、延長約10km、流域面積40.8km²の一級河川である。</p> <p>○篠井川下流の延徳平は、もともと低湿地であり、千曲川本川との高低差が無く、立ヶ花狭窄部による水位上昇の影響も加わり、本川が逆流し、約600haに及ぶ水田に内水氾濫の被害を生じさせてきた。</p> <p>○昭和36年6月の梅雨前線豪雨により、当該未整備区間において、農地冠水270.0haの被害が、また、昭和40年9月の台風により、床上36戸、床下24戸、農地冠水600.0haの被害、平成16年10月に床上2戸、農地冠水139.0haの被害が発生した。</p> <p>○これを受け、昭和41年から小規模河川改修事業で河川整備を実施。</p> <p>○当事業区間の上下流は、小規模河川事業、通常砂防事業により整備されている。</p> <p>○なお、国では、昭和40年代に抜本的な内水排除対策として、千曲川合流点に排水機場(全体計画排水量30m³/s)を建設している。</p>					事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価			
						②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	<p>○護岸に植生の回帰が可能な隙間の多い接続ブロックを施工し、覆土には現場発生土を用い、在来種の植生回復を促したたことにより、従前の自然環境が復元された。</p> <p>○河川の流下能力向上により、流域住民の生活の安全・安心が確保され、より快適な生活環境となった。</p>	B		
事業目的	<p>○昭和36年6月、昭和40年9月、平成16年10月に浸水被害が発生したことから、当事業区間における浸水被害を防止するため、概ね30年に一度の降雨に対する治水安全度を確保し、121.5m³/sの流下能力を持つ河川断面への改修を目指す。</p>					③施設の維持管理状況	<p>施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)</p> <p>○河川管理者が維持工事(草刈り等)や河川パトロール等必要な維持管理を行っている。</p> <p>○地域住民で構成する「篠井川河川愛護会」による環境整備(葦、藻草刈り、柳伐採、約10,000m²)が継続的に行われている。</p>	評価	A	
						④地域住民等の評価	<p>地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)</p> <p>○浸水の不安から解消され、安全・安心な生活環境が確保されたため、住民の方の評価は高い。また、所々に親水性を考慮した階段工を設けているため、河川利用が促進された。</p> <p>○田んぼが水浸しになることが無くなり、安定した農業への評価も頂いている。</p> <p>○川をきれいに整備してから、1mを超える鯉がとれるようになったと、地元の方からも喜びの声を頂いている。</p>	A		
事業概要	当初工期	H17~H21	費用対効果(当初時)	3.7	事業費(千円)		財源内訳(千円)			
	最終工期	H17~H22	費用対効果(評価時)	1.5	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源	
	当初計画内容(主な工種)	護岸工L=580m		154,400	77,200	—	69,000	8,200		
	最終事業実績(主な工種)	護岸工L=580m		382,600	191,300	—	172,200	19,100		
事業期間の延長、短縮理由と分析	<p>○工事着手したところ、現地の地質が当初の想定以上に悪かったため、仮設工事の数量及び規模が増加し、それに伴い事業期間が延長となった。</p> <p>○果樹園の進入路と工事用道路が輻輳し、資材搬入時期の調整など不測の日数を要したため、事業期間が延長となった。</p>					⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	<p>事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)</p> <p>○整備された堤防天端(管理用道路)が散策路等に利用されており、地域の方の健康増進に貢献している。</p> <p>○自然環境の復元により、自然に親しみのある河川環境空間の提供ができた。</p>	評価	B	
						事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	○工事着手したところ、現地の地質が当初の想定以上に悪かったため、仮締め切り工の規模が大きくなり事業費が増額となった。			
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)					評価	B			
	直接的効果(定量的・定性的)	<p>○河川の流下能力が、74.2m³/s から 121.5m³/s に増加し、治水安全度が向上した。</p> <p>○保全対象である、公民館、家屋40戸、道路30.0km、鉄道1.2km、農地121haの浸水被害が防止された。整備完了後の平成23年~平成27年の豪雨による出水では、浸水被害は発生していない。</p>					改善措置の必要性	○特になし		
	間接的効果(定量的・定性的)	<p>○流域住民の安全・安心が高まった。</p> <p>○河川環境が整備され、河川が本来有している良好な自然環境が復元された。</p>					今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	<p>○本川となる千曲川が未改修のため、本事業では当面実施可能な121.5m³/sで整備しているが、将来的には千曲川の改修に併せ、流下能力135m³/sの河川断面へ改修する。</p> <p>○本事業における自然に配慮した工法の選定は効果が表れている。同種事業の実施にあたっては、今後とも環境に配慮した整備を行う必要がある。</p> <p>○河川の維持管理面において、高齢化により「河川愛護活動が大変になってきている」との意見もいただいている。維持管理を持続的に行っていくためには、人力で作業できない立木伐採、除根等を行う「わがまちの川」美化事業なども活用し、引き続き、愛護会等と協働していくことが必要である。</p>		
	部意見	○事業の実施により、流域住民の生活の安全・安心が確保されたほか、自然に配慮した工法の採用により、植生の回復や魚類等の生育環境が保全され、事業効果は高い。					行政改革課意見	○治水安全度の向上が図られ、事業の目的を達成している。		